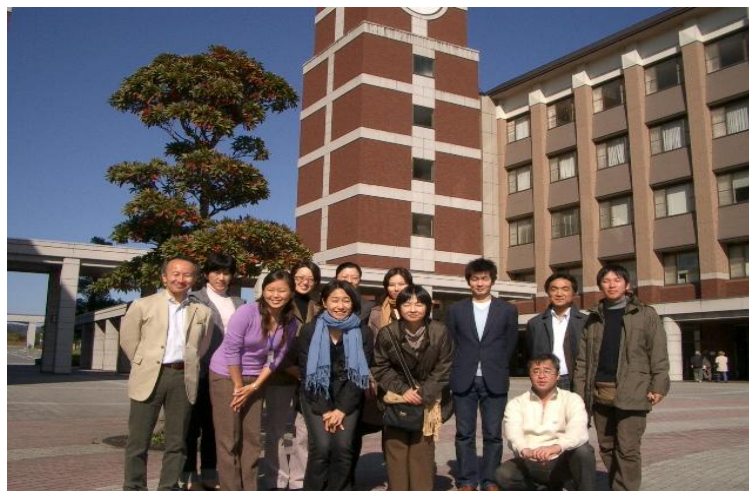


「国際教育交流中上級者コース」研修報告

2007年11月15日～17日(於 立命館アジア太平洋大学)



《研修に参加された皆さん》

平成19年度JAFSA研修プログラム「国際教育交流中上級者コース」が11月15日から17日までの2泊3日で、立命館アジア太平洋大学において開催されました。随所にアイスブレーキングを織り交ぜながら、異文化適応やオリエンテーションの設計を中心に進められた研修には、全国から12名が参加し大変有意義なものでありました。

今回のセミナーでは、3日間を通じて3度のアイスブレーキングが行なわれました。色紙を介して現在の自分を表現したり、A4用紙にそれぞれが日頃の業務で抱える課題や悩みを書き出し、その課題について解決策を一人ずつ記入していくことで、身近にある物を使用しながら自分の内側に潜む考えが思いのほか客観的に表現できることや、他者に対して提案をすることが自己の理解を深めることに繋がることを学びました。最終日には、アイスブレーキングの手法に関する質問が多く出たことや、オリエンテーションのグループ発表で4グループ全てがアイスブレーキングを取り入れていたことを鑑みても、オリエンテーションや研修などの効果を高める手段としてのアイスブレーキングの重要性を参加者全員が体感したのではないかと思います。

教育的援助としてのオリエンテーションと題して行なわれた講義では、大学の講義も教育であるけれど、職員が行なうオリエンテーションも教育の一環であることを、オリエンテーションの設計から開催までに携わる私達自身が認識しておくことを基礎に置き、異国の地で生活を送る上では必ず誤解が生じることや、異なる文化に適応するには誰しも辛い学びの期間を経験することを事前に踏まえた上で、学生が留学生活を送ることができるよう促すオリエンテーションの設計が重要であることを感じました。

この度のセミナーは、堀江・高木両講師によるアイスブレーキングを織り交ぜながらの進行、キャンパス内にある学生宿舎の研修施設に相部屋での宿泊、少人数、であったことから終始アットホームな雰囲気が進められました。その中で、他大学で同種の業務に就いている者同士が、それぞれの取り組みや抱える課題を話し合うことが自然とブレインストーミングとして作用していたように感じられました。



《グループワークの様子》



《講義風景》

またセミナーのみならず、情報交換会や研修後の自由時間を活用してざっくばらんに交わされる会話を通じ知識や情報を共有できたことや、担当者間において新たなネットワークが築けたことも、セミナーを有意義に過ごせた要因であると思います。今回のセミナーで得た新しい知識やネットワークを、学生の留学後までを視野に入れた今後のオリエンテーション設計に活かしていきたいと考えております。

おわりに、セッションの準備にご尽力くださったJAFSA事務局の皆様、講師のお2人、また、事前の案内やキャンパスツアーなどで暖かく迎え入れてくださった立命館アジア太平洋大学の担当者の皆様に感謝を申し上げます。

以 上

報告者: 兼吉晴美氏(広島経済大学)